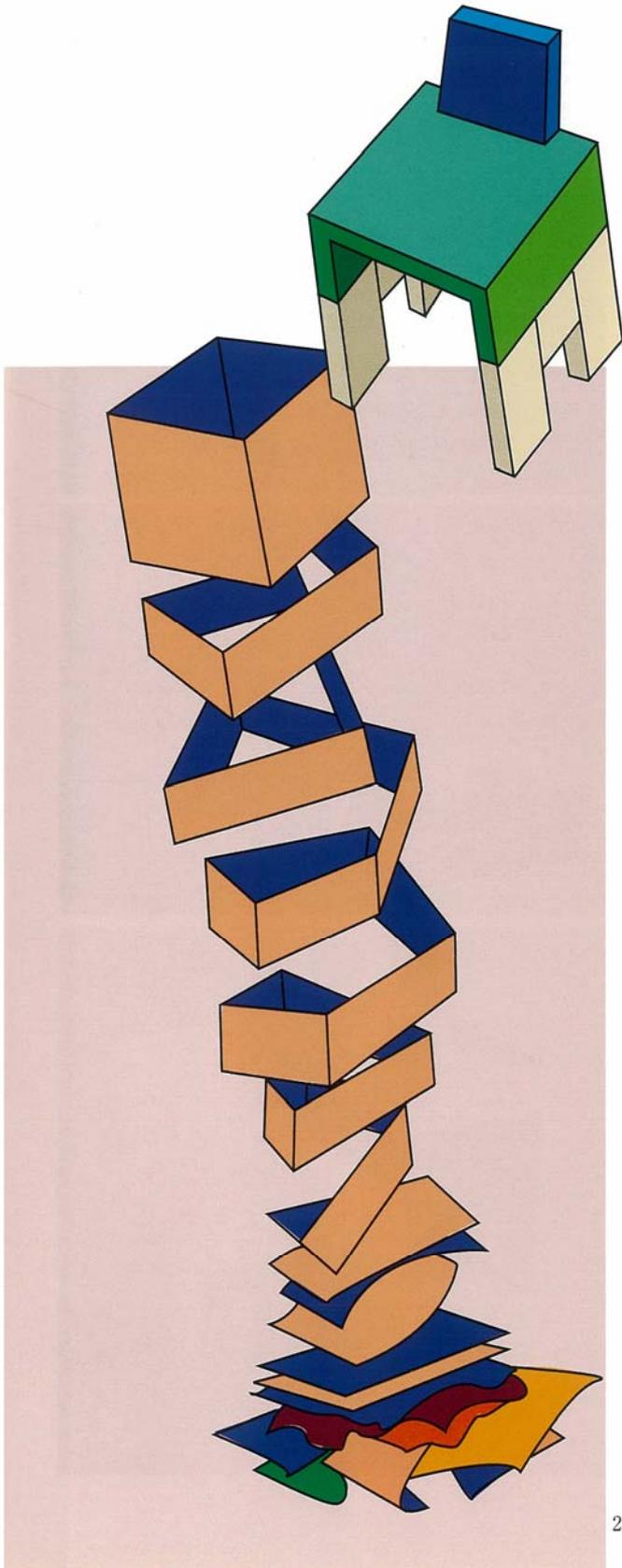


子どもの自立性を育む K-CHAIR

宮本 知



K-CHAIR 発想の原点

「アルプスの少女ハイジ」という子供向けの人気 TV 番組を知る人は少なからずおられると思いますが、その物語の中でハイジは山のおじいさんの家に預けられることになり、そしてある朝、おじいさんが自分用の椅子を作ってくれたことに大喜びするシーンがあったことを覚えておられるでしょうか。

後になって知り得たことなのですが、椅子はハイジが家族の一員として迎え入れられた証であり、自分のポジションが明らかになったという意味があるそうです。さらに西洋において椅子は、子供の自我のめざめと時を同じくして与えられ、人のアイデンティフィケーションのシンボルとしての機能をもったことです。

このことは、知識や規律を教えるためのモチーフと同じように、椅子が自立心や自覚心といった人のアイデンティティの形成を促すエディケーション・モチーフになり得ることを示してくれています。

K-CHAIR のファミリー・エデュケーションという考え方の原点はここにあります。

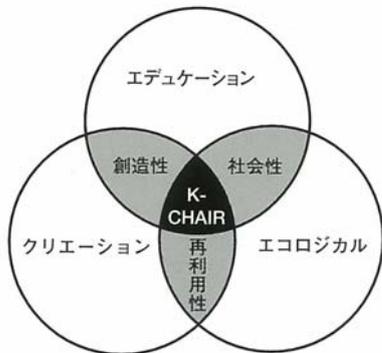
K-CHAIR のデザイン

子どもたちの心の中に、いつまでも残しておきたいと思う大切なもの、子どもたちの心を大きく育むものが今必要なのではないか。

バブル経済期を経験した社会で、ものの本質や価値や、価値感があやふやになりかけている今が、生き方や価値感、ものの本質を見極め正さなければならない時ではないか。

デザインのなすべき事は表層的な事ではなく、どのような未来設計をすべきか、どのような世界観を必要としているのかと、問うていくなかで、心の豊かさや発見や創造の喜びを子どもたちに伝え残していきたい、そういう揺るがない信条から発せられるメッセージこそ大切なのではないか。

もとよりデザインが担っている本質的なことを、このK-CHAIRを通して、表現し実現することが出来るのではないだろうか。そういう思いがK-CHAIRを単なるプロダクト商品ではなく、社会全体をまきこんだ活動として捉えていこうとする基本姿勢を生んだのです。

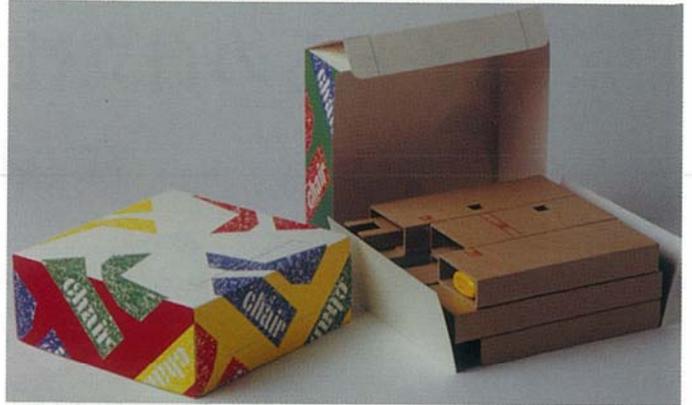


K-CHAIR CONCEPT CHART

K-CHAIRは、でき上がった形をとればどれも同じですが思い思いの絵を描くことで自分だけの椅子ができます。

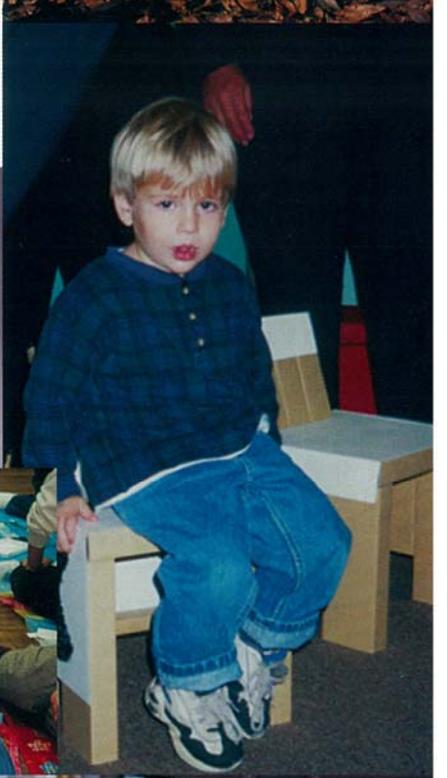
この椅子の真価は、親子で一緒に協力し助け合いながら作り、そして実際に使われた数年後に問われます。

これからの商品開発では商品を送り出す未来をもデザインする視点が大切なのです。





 **GOOD DESIGN
AWARD 1998**



K-チェアーとは

材質は角紙筒（紙の再利用加工）で就学前の幼児用のイスです。それはキットになっていて、親子で協力しながら組み立てて作ります。出来上がったイスは、子どもが自由に絵を描いて自分のオリジナルのイスに仕上げます。このイスの座面は、1 トンに耐えられる強度があります。K-CHAIR は次のリサイクルを可能にするため及び安全性の配慮と環境対策上コーティング等の加工は一切してありません。又パッケージは裏返してイスのカバーとして使用するため、ほとんどゴミがでないデザインになっています。

K-CHAIR の役割

イスとしての役割はもちろんですが、それ以前のイスを組み立てる過程において、就学前の子どもが親と一緒に経験すると良いと思われる 5 つの「エレメント」を、知らず知らずのうちに体験する仕組みになっています。

これをファミリー・エデュケーションと呼び、K-CHAIR の役割の大きな特徴です。

ファミリー・エデュケーションの 5 つのエレメント

1、発見（ディスカバリー）リサイクルしよう

物を作るとき新しい材料を使うだけでなく、すでにある物を再度利用し作り変えて新しく生まれ変わらせられることを学びます。

2、協力（コラボレーション）力を合わせよう

イス作りは手順を追って、「ちょっとノリを付けて」「ここを押さえて」親子でコミュニケーションをとりながら協力することの楽しさを体験します。

3、創造（クリエイション）イメージをふくらまそう

平面紙だったものが立体として完成する驚きを実感します。イスに好きな色がけや絵を描きます。自分だけのイスの創作です。

4、心（マインド）大事に使おう

お父さんお母さんと一緒に作った特別なイス、自然に「大切に使おう」という気持ちを芽生えさせます。

5、記憶（メモリー）僕はこんな子だよ

幼稚園で作ったイスを卒園時に持ち帰ります。子どもが描いた絵はもちろんのこと、キズも汚れもそのどれもが「僕はこんな子だよ、わかってね。」と親に呼びかけてくれます。

K-CHAIR の社会的評価

K-CHAIR が受賞した通産省グッドデザイン賞・教育部門はボールペンから図書館用収納システムまでと、応募点数に比べ商品の幅が広く、他部門での応募が可能な物が多いので、ここ数年教育部門が課題とする教育用品の新しい価値や役割が問われていた様です。そんな中、人間性の喚起や社会的・文化的価値の増進をテーマに時を越えて機能しつづけ、未来をもデザインする視点で開発した K-CHAIR が一石を投じ、新しい価値と役割を示す商品として、未来をもデザインする“グッドデザイン”として賞されたのです。

財) 日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞 G マーク授賞評価コメント

視点の面白さをもっと活かして今後の広がり期待したい。プロダクト完成が最終目的ではなく作り手の参加チルドレンミュージアム構想に関わっているというシステム。ソフトとデザインとの関わりが高く評価できる。

オリジナリティー・適正な価格・コンセプトの先進性・ソリューションの適切性・エコロジー性・ユーザーコミュニケーションの良さ・システムの先導性・社会的及び文化的価値の増進・人間性の喚起

このように要素の多い商品は多くはなく K チェアーのインパクトの強さの程が窺えます。

日本産業デザイン振興会 G マーク事業部

K-CHAIR・PLANNING FRAME

▶ 商品コンセプトプロダクト・流通・消費のすべてに善循環が働く。

■ 素材の安全性、構造の親切・適切性

■ リサイクル性

■ 商品普及手法の社会性

■ 創作と工作性

● 協力し合いながら人の手で個性を生かしたもの作り。

● つくる、使う、保存（思い出）。

● リサイクル材を使いまたリサイクルできる。

● 福祉作業所との連携。子どものための文化施設との連携。

● 福祉援助基金。



1998, OCT, 30th

K-CHAIR の発表以来

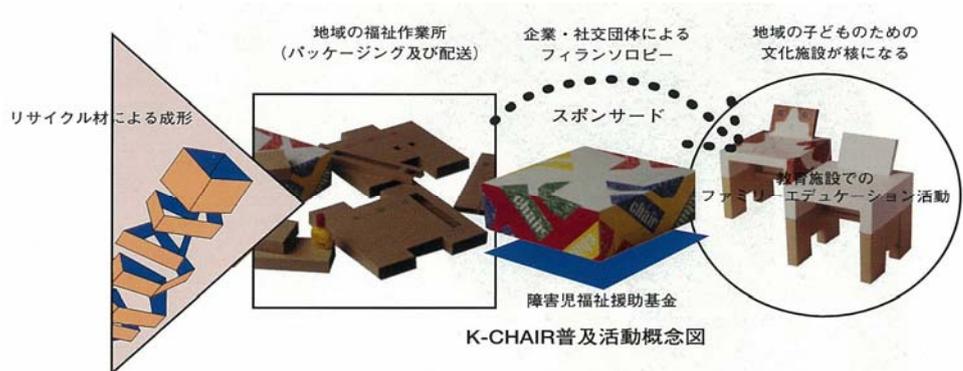
ボストンチルドレンズミュージアム
 お茶の水女子大学付属幼稚園
 青山学院幼稚園
 玉川学園
 東京都中央区立の全ての幼稚園
 浦安市役所環境課
 最上町立最上中学校
 ライトクラフト研究所
 横浜ブックレット企画
 多治見市立多治見中学校
 置島文化村国際キャンプ場
 ろりぼっぷ幼稚園
 土陶夢会
 豊田高等環境都市工学科
 奈良市立あやめ池小学校
 女子美術大学
 ラボ教育センター
 泉大津市立戒小学校
 名古屋芸術大学
 坂出市立金山小学校
 藤森児童園教室
 神奈川県立伊勢原養護学校
 稲美町立天満小学校
 目黒区立中央町保育園
 柏井保育園
 名古屋友の会子供部
 引田中学校
 さつき幼稚園
 晃華学園小学校
 貝塚市立北小学校
 箕面市立西南小学校
 邑楽町公民館
 一宮聖光幼稚園
 てんとうむし幼稚園
 松戸友の会幼児生活団
 九州養護福祉大学
 秋田市環境部再資源課
 岐阜友の会
 木の実幼稚園
 こころ保育園
 浜松職業能力開発短期大学
 長府幼稚園
 北海道芸術デザイン専門学校
 あいの保育園
 下宇和保育園
 サビックス小学部
 山中保育所
 睦保育園
 箕面市役所市民生活課
 相興保育園
 コスモス保育園
 諸富南幼稚園
 子どものための博物館 「キッズプラザ大阪」
その他多くの施設で採用され、展開されています。

K - CHAIR 普及の新しい波

K - CHAIR は就学前の子どもたちが親と一緒に経験する事から始まるファミリー・エデュケーションを主眼においた商品です。

この主旨を活かすために、教育施設（幼稚園等）での学習活動の一貫としてこのファミリー・エデュケーションを位置づけていただくことを提案しています。

そしてこの、K - CHAIR のパッケージキットはその地域の子どものための文化施設（チルドレンズミュージアム、児童館等）が核になり、企業や各種社会団体の協賛によって、教育施設（幼稚園等）の学習活動を通して5才児または6才児のもとに届けられる、そんな流通の仕組みを作りあげたいと考えています。



注：本稿は子どものための椅子「K-CHAIR[®]」開発構想に関わり、K-CHAIRの理念形成や社会的意義づけ、チルドレンズミュージアム活動との連動及び普及手法の提案等の助言内容を要約したものです。

※K-CHAIR: テキスタイルデザイナー北村俊道氏が製紙工場で角紙管と出会ったことから開発構想は始まりました。